

視 点

ベトナムの合繊工業

Tecnon OrbiChem の月刊レポート「Synthetic Fibres」が伝えるところによると、台湾化繊がこのほど、ベトナム Dongnai 省でナイロン 6 の重合生産を開始した。最近では現地資本の PVTEX がポリエステル S の生産を開始し、ベトナムの合繊工業は急拡大しようとしている。ベトナムの合繊工業の概要を報告する。

1. ベトナムの主要合繊企業

ベトナムの合繊産業では現在、外資系企業が重要な位置を占めている。すなわち、台湾資本の台湾プラスチックグループと韓国資本の暁星の 2 社である。

台プラグループは、グループ企業の台湾化繊が衣料用ナイロン 6F (年産 4000 トン) を製造している。このほど年産 5000 トンのナイロン 6 重合設備の稼働を開始。製造したポリマーのほとんどは同じ敷地で操業しているナイロン 6F 工場に供給し、残りは中国に輸出する予定である。台プラグループの大手織物企業フォルモサ・タフタと共同進出しており、将来的には織物までの一貫生産を計画している模様である。

ポリエステル繊維については、傘下の越南台湾興業責任有限公司が Nhon Track で製造。ベトナムにおける合繊工場の第 1 号であり、衣料用フィラメントとステープルを製造している。越南台湾興業は 95% が台プラグループの出資である (台湾化繊 42.5%、南亜塑膠 42.5%、フォルモサ・タフタ 10%)。

表 1 ベトナムの主要合繊企業

	企業	年産 1000 トン	備考
ナイロン F	台プラグループ	4	衣料用 6
	暁星	14	産資用 66
ポリエステル F	台プラグループ	55	衣料用
	暁星	53	タイヤコード用
	KY Fibre	14	衣料用
	PVTEX	45	計画
ポリエステル S	台プラグループ	50	
	PVTEX	135	2011 年稼働開始
スパンデックス	暁星	15	

(出所) PCI ほか

(注) このほかにリサイクル・ポリエステル S メーカーが数社存在

一方、暁星は産資用ナイロンFおよびポリエステルF、スパンデックスを製造している。産資用はタイヤコードまでの一貫工場で2007年に生産を開始した。スパンデックスは2008年より生産を行っている。

外資系中心の構造であったが、このほどPVTEXがポリエステルSの生産を開始し、様相が変化しつつある。PVTEX（Petrovietnam-Vinatex Dinh Vu Petrochemical and Fiber Joint Stock Company）は、国有石油企業のPetrovietnamと国有繊維企業のVinatexによる合弁企業。Hai PhongのDinh Vu工業地区に、日産500ト（年産18万ト）規模のポリエステル繊維工場を建設する計画である。工場建設については、ドイツのUhde Inventa-Fischer、韓国のHyundai Engineering Co., LtdやLG International Corp.とコントラクト契約を締結している。

2. 2010年の合繊生産は23万ト

Fiber Organonによると、ベトナムの2010年の合繊生産は23万ト。フィラメントが12万ト、ステープルが11万トとほぼ半々の構成である。2007年の生産は約12万トであり、この3年間でほぼ倍の規模に拡大したことになる。

生産能力は2011年3月時点で年産34万ト規模。フィラメント、ステープルともに増強が計画されており、2012年末には41万ト規模になる見通しである。

表2 ベトナムの合繊生産・生産能力

(1000トン)

		フィラメント	ステープル	計
生産	2007	52.1	66.0	118.1
	2008	54.6	85.0	139.6
	2009	81.5	98.4	179.9
	2010	118.8	111.2	230.0
生産能力 (年産)	2011/3月	184.0	160.0	344.0
	2012/12月(計画)	229.0	186.0	415.0

(出所) Fiber Organon

3. ポリエステル需給

ポリエステルの需給をみると、2009年のポリエステルFDYの内需は月間9,354トンに対し、輸入が8,061トンで輸入比率は86%と高い。一方、加工系の輸入比率は36%である。

ポリエステルSについては、内需が月間2.1万トンに対し、輸入比は1.5万トで、輸入比率は約7割となっている。

表3 ベトナムのポリエステル需給動向
(月産トン)

		2009	2010(見込み)
ポリエステルFDY	生産能力	1,486	1,886
	生産	1,486	1,886
	内需	9,354	10,290
	輸入	8,061	8,597
	輸出	193	193
ポリエステル加工系	生産能力	11,021	11,721
	生産	11,021	11,721
	内需	10,800	11,970
	輸入	3,879	4,349
	輸出	4,100	4,100
ポリエステルS (リサイクルを含まない)	生産能力	9,000	9,000
	生産	7,400	7,400
	内需	21,000	23,600
	輸入	14,600	17,200
	輸出	1,000	1,000

(出所) アジア化繊産業会議資料より

4. 繊維最終消費はコットンが中心

FAOによると、繊維最終消費量(一般消費者が消費する繊維量)は2008年で23万トン。人口は8,700万人で、一人当たりの繊維消費は2.7キロと小さい(世界平均は10.4キロ)。ただし、人口、一人当たり消費量ともに伸びており、繊維消費量は急激に増加している。

素材別には、合繊は製品段階でほぼ輸出されてしまうため、国内消費のほとんどは綿花となっている。

表4 ベトナムの繊維最終消費動向
(1000トン、100万人、キロ)

	繊維消費量	人口	一人当たり繊維消費量	うち綿	合繊
1992	26.8	69.0	0.4	0.3	0.1
1996	32.3	74.2	0.4	0.3	0.1
2000	57.1	78.7	0.7	0.6	0.0
2001	63.7	79.8	0.8	0.8	0.0
2002	73.3	80.9	0.9	0.9	0.0
2003	97.2	82.0	1.2	1.2	0.0
2004	115.1	83.0	1.4	1.4	0.0
2005	134.8	84.1	1.6	1.6	0.0
2006	167.3	85.1	2.0	1.9	0.0
2007	208.5	86.1	2.4	2.4	0.0
2008	233.6	87.1	2.7	2.7	0.0

(出所) FAO

(担当: 杉原)